

小児のアレルギー性結膜炎

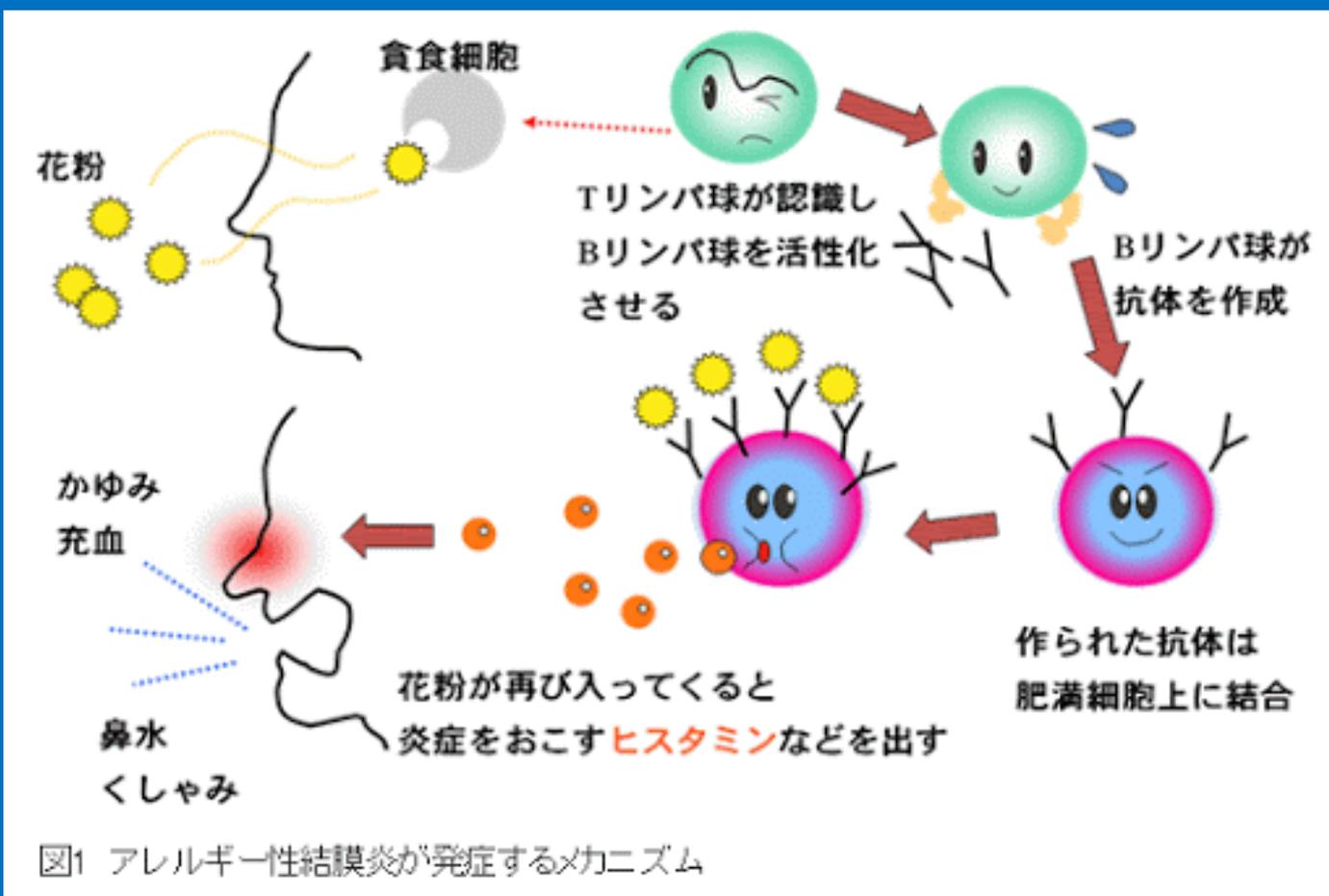
従来、小児の結膜炎は、重症型アレルギーでも中学生ぐらいの年齢で自然軽快していたのですが、最近は罹患期間が長期化しています。

また、小児には少なかった花粉症の発症が低年齢化していることも指摘されています。

小児のアレルギー性結膜炎について正しい知識を持って、付き合い、治療にあたるようにしましょう。

アレルギー性結膜炎とは

- I型アレルギー反応を主体とした角膜、結膜における炎症反応のことです。



① 「肥満細胞の脱顆粒により局所に遊離したヒスタミンなどが炎症を起こすもの」には、季節性アレルギー性結膜炎(いわゆる花粉症)やハウスダストなどによる通年性アレルギー性結膜炎があります。

② ①に加えて、活性化好酸球の関与により、結膜の増殖性変化や角膜上皮障害を起こすものは、より重症なもので、春季カタル、アトピー性角結膜炎、巨大乳頭性結膜炎があります。



正常



アレルギー性結膜炎



巨大乳頭結膜炎

上まぶたの裏側を観察したものです

臨床像

- 小児では、年中充血・かゆみ・眼脂のでのる通年性アレルギーと特徴的な結膜増殖や角膜障害を呈する春季カタルがメインでしたが、季節性アレルギーも増加傾向にあります
- ダニを中心としたハウスダストや多種類の花粉がアレルゲンとなります
- 小児に特徴的なのは、心理的要因が増悪因子であることです
- 重症アトピー性皮膚炎を合併しない場合は、思春期頃に軽快することがほとんどでした(過去形)
- 重症アトピー性皮膚炎を合併する場合は、春季カタルが難治化しやすいということは変わりません

通年性/季節性アレルギー性結膜炎

所見:

1. 通年性にかゆみ、充血が起こり、眼脂が出ます。
2. 結膜の乳頭は大小不同ですが、著明な増殖性変化はありません。
3. 角膜上皮障害を伴う場合は、視力低下を訴えることがあります
4. 季節性アレルギーでは、症状の出現が季節性になります。

春季カタル

1. 掻痒感や眼脂は通年型アレルギー性結膜炎より重症となります。
2. 角膜病変により、異物感、眼痛、羞明の訴えがあります。
3. 瞳孔縁にシールド潰瘍ができると、視力低下や眼痛のため、学校へ行けなくなる可能性があり、注意を要します。

治療

1. 抗原回避

- a. 花粉:ゴーグル型メガネの使用や、防腐剤を含まない人工涙液での洗眼が有効です。
- b. ハウスダスト:こまめな掃除、床材の工夫が必要となります。
- c. ペット:屋内飼育を避けることが望ましいでしょう。

2. 抗アレルギー点眼薬

- a. 安全性が高いため、第一選択となります。
- b. ケミカルメディエーター遊離抑制薬、ヒスタミンH1受容体拮抗薬があり、両方を含む点眼薬が現在の主流となっています。

治療

3. ステロイド薬の使用

抗アレルギー剤で効果が不十分な場合に用います。ただし、ステロイド薬には、下記のような副作用がありますので、注意が必要です。

★ステロイド薬の副作用★

- a. 眼圧上昇：小児では眼圧上昇が起きやすい（約20%） ことが分かっています。
- b. 長期使用で白内障が進行する場合があります。
- c. 内服では成人の副作用（脂肪沈着、血糖値上昇、骨粗鬆症など）に加え、骨端線の早期閉鎖の可能性も指摘されています。

従って、定期的な眼科受診が必要になります。

治療

4. 免疫抑制剤

- a. IL-2などのサイトカイン転写抑制により T細胞活性化を抑えます。
- b. 春季カタルの重症例に使用します。
- c. ステロイドが副作用で継続できない場合に離脱目的で使用することもあります。
- d. タクロリムス、シクロスポリンの2種の点眼剤があります。

5. 外科的処置

春季カタルの重症例で、角膜障害のため、眼痛、視力障害が強い場合に施行します。

- a. 結膜乳頭切除：局所麻酔下で切除します。
- b. 角膜搔爬：プラークや角膜潰瘍底を搔爬します。
角膜実質の混濁に対してはエキシマレーザーを用いることもあります。

治療

小児の結膜炎治療には、小児特有の難しさがあります。

- 痒くなると、擦ることを我慢できない(大人でも?)
- 点眼、洗眼を嫌がって、させてくれないことがあります。
- 局所の清潔を保つことが難しい(特に男児)。
- 大人と比べてステロイドの副作用が出やすい。
- 診察が難しい(泣いてしまうと、結膜充血の判定が不能となります)。ステロイドを継続使用中に眼圧測定が必要になりますが、子供さんによっては、かなり難しいことがあります。

以上、小児のアレルギー性結膜炎について簡単に説明させて頂きました。患者さま向けには、日本眼科学会や日本眼科医会のWeb Site にも様々な病気のお話が掲載されていますので、参考にしてください。

http://www.nichigan.or.jp/public/disease/ketsumaku_allergy.jsp

<https://www.gankaikai.or.jp/health/33/12.html>